



教育文化学部学生協議会について

学生協議会議長 和泉 浩

教育文化学部には「学生協議会」という教員と学生・大学院生で構成されている「生徒会」のような組織があります。各コースから1名から数名の委員が選ばれています（地域文化学科の1年生はまだコースに分かれていないため学科から選ばれています）。学生委員のなかから学生代表と副代表が選ばれています。

昨年3月の『みなおと』（No.52）にもこの学生協議会について書かせてもらい、課題として、活動があまり行われておらず、教職員や学生にもあまり知られていない、といったことを書いたのですが、今年度の学生代表の有原香乃さん（4年）、副代表の田口陽介さん（4年）、相馬慈さん（3年）、藤田菜々子さん（3年）が中心になって積極的な活動を行い、この1年でかなり活動が増え、活動の機会も広がりました。学部内での活動だけでなく、大学からも学生協議会にいろいろな協力依頼が来るようになり、大学のホームカミングデーや県内4大学連携協力事業といった秋田大学の卒業生や学外ともかかわる活動に広がりました。

今年度の主な活動を表としてまとめてみました。まとめていて気がついたのですが、ほぼ毎月何かの活動を行ってきました。4年生と3年生は進路にかかわるさまざまな活動や試験・試験勉強、卒論などもあり、とても忙しいのですが、そうしたなかでよく活動してくれていると思います。たとえば代表の有原さん（心理実践コース）は来年度大学院に進学予定ですが、院試の準備と試験、卒業研究などがあるなかで、自分が担当できないとき副代表と調整しながら代表を務めてくれました。

表にまとめたもの以外にも私が忘れていた活動があると思います。表の活動のなかには入れていませんが、今年度、学生協議会の部屋の片づけも行いました。学生協議会には委員が集まっ

て相談などができる部屋があるのですが、古いパソコンやプリンター、ポット、壊れた傘立てと傘などいろいろなものが置いたままで、少し物置のような感じになっていたため、副代表の相馬さんと協力して何回かに分けて片付けや粗大ゴミの廃棄、掃除を行いました。かなり片づいて、使いやすい部屋になったのではないかと思います。

活動が増えてきたので、これを維持しながらさらに活動を広げていくこと、まだ名前だけの委員がかなりいるため、代表と副代表と一部の委員だけでなく、できるだけ多くの委員が活動していける組織になることが、今後の学生協議会の課題だと考えています。

来年度の活動として、これまで協議会で担当してこなかった新しい活動ですが、4月の入学式後の保護者説明会（希望する新入生も参加）で学生生活等について代表と副代表（今期と次期の予定）が説明を行う予定になっています。オープンキャンパスの説明会で代表と副代表の話を聞いた新入生もいると思いますが、入学式の日学生協議会を知る新入生たちも出てくるようになり、さらに学生間での認知度が高まっていくはずですが、私の任期は3月末までですが、活動などについて次期の学生委員と担当の教員にうまく引き継いでいき、学生協議会の活動がさらに活発になることを期待しています。



学部長との懇談会

（6月20日 学生：左から藤田・相馬・有原）

学生協議会学生委員の今年度の主な活動

年 月	活 動	学生委員担当
2023年 3月	学生協議会 Webclass 開設（学部 of 全学生と院生を登録） 代表および副代表のあいさつ文と写真を掲載 ※Webclass に投書箱等も設け、学生からの意見や提案に教職員が対応。	代表・副代表
2023年 4月	・今年度の活動計画と学部長との懇談会に向けた準備、メルマガのタイトルについての相談（24日）	代表・副代表
2023年 5月	・学生協議会メールマガジン『手形かもしか学園』配信開始（8日） ・学部長との懇談会に向けて、Webclass も利用して学生からの意見の収集および要望書の作成	代表・副代表
2023年 6月	・「学部長との懇談会」で学部長に学生からの要望書を提出（20日） ・オープンキャンパスでの説明資料作成および準備	代表・副代表
2023年 7月	オープンキャンパスでの全体説明会での説明および来場者の案内、会場の準備と片付け（28日・29日）	全体会での説明： 代表・副代表 案内等：代表・副代表・学生委員
2023年 9月	秋田大学広報誌『アプリーレ』（No.8：2023年12月発行予定）のための取材依頼。共通テストの時期にあわせて高校生に学生生活を知ってもらうために「学生特集」。	副代表
2023年 10月	広報課からの依頼で第6回秋田大学ホームカミングデーに参加（進行にも協力）（14日）	代表・副代表
2023年 11月	学部の150周年記念式典と祝賀会に参加（4日）	副代表
2023年 12月	・県内4大学連携協力事業に参加（司会・発表）（9日） ・『高等教育グローバルセンターフォーラム』第43号「大学教育のグローバル化」の原稿執筆（2024年3月発行予定） ・各コース等に次期学生協議会学生委員推薦依頼	代表・副代表 副代表
2024年 1月	図書館長との懇談会に参加予定	副代表
2024年 4月	入学式後の保護者説明会で学生生活について説明予定	代表・副代表
通 年	・学生協議会メールマガジンの文章作成と配信 ・『みなおと』の原稿担当	代表・副代表・学生委員



オープンキャンパス（7月29日）学部全体説明会





オープンキャンパス（7月29日）学部全体説明会

對馬達雄名誉教授が瑞宝中綬章を受章

2023年度の秋の叙勲において、對馬達雄名誉教授が瑞宝中綬章を受章されました。先生は、東北大学教育学部、教育学研究科を修了後、1972年に秋田大学教育学部に着任され、1990年に教授となり、2012年3月に退職されました。主に教育史の授業を担当されていました。また、教育学部長・教育文化学部長（1997～2000年度）、副学長（2009～2011年度）も務められました。

1984年に「3月以降プロイセン=ドイツにおける初等学校問題とディースターヴェーク構想」で教育学博士（東北大学）を授与されています。単著として、『ディースターヴェーク研究—その初等学校改革構想とプロイセン議会』創文社（1984）、『ナチズム・抵抗運動・戦後教育—「過去の克服」の原風景』昭和堂（2006）、『ヒトラーに抵抗した人々—反ナチ市民の勇気とは何か』中公新書（2015）、『ヒトラーの脱走兵—裏切りか抵抗か、ドイツ最後のタブー』中公新書（2020）、編著として、『ドイツ過去の克服と人間形成』昭和堂（2011）、翻訳として、ウルリ

ヒ・アムルンク『反ナチ・抵抗の教育者ライヒヴァイン 1898-1944』佐藤史浩共訳、昭和堂（1996）があります。



出典：『ヒトラーの脱走兵』／對馬達雄インタビュー | [web中公新書 \(chuko.co.jp\)](http://web中公新書(chuko.co.jp))

私の学生生活紹介

地域社会コース 2 年次 齋藤涼夜

私は教育文化学部の地域文化学科に所属していて、法律、経済学、社会学、マーケティングなど、様々な講義を受講して、幅広く勉強しています。もちろん学校の講義は多くの学びがありますが、学校外のことでの学びもこれまでたくさんありました。その中で、紹介したいことは二つあります。

まず、一つ目は1年次に7月から11月にかけて能代市の市民協働会議へ参加したことです。これは講義ではなく、アルバイトとして参加して、月に一回程度能代へ行き、能代市で働いている皆さんと能代市がこれからどう変わってほしいのか、意見を交わしました。この交流を通して、市役所、福祉関係、教育関係などで働いている方々からの貴重なお話を聴くことができ、とても良い経験になりました。自分の考えには足りない部分、実際に働いているからこそその「経験からの考え」をお聞きすることができて、すごく勉強になりました。



教育文化学部 3号館講義室 146



能代市「天空の不夜城」

そして、紹介したいことの二つ目は休み時間や空き時間の過ごし方です。受講する講義は自分で選択することができ、講義がない時間を自分で作ることができます。その休みの時間でこれまで私が行ってきたのが、空き教室で課題をやったり、学校を出て少し遊びに行ったりなどです。毎週のように課題に追われているため、空いた時間には誰も使っていない教室を探して、集中して短い時間で終わらせられるように努力しています。秋田大学の a・net (アネット) というシステムを利用して、教室の利用状況を調べて、空き教室を探すのがおすすめです。また、急ぎの課題がないときは、秋田駅周辺に遊びに行ったり、行ったことのない場所に歩いて行ってみたい、気分転換もしています。

大学生活は本当にあっという間だと今まさに実感しています。学生のうちに挑戦できること、やってみたくことをできる限り行って、悔いなく過ごしていきたいと思っています。

インターンシップへの参加を通して

地域社会コース 2 年次 越渡愛結

こんにちは！今回は私がみなおとに投稿させていただくことになりました。

私からは、今年から本格的に行動し始めた就職活動の準備についてお話ししたいと思います。「大学 2 年生なのに、もうやってるの？」と思った方もいるかと思いますが、決して特別なことではないんです。

私は将来、自分の能力を活かして人のためになる仕事に就きたいという希望から、公務員になりたいと思っていましたが、一概に公務員と言っても仕事は多種多様です。その中でも元々興味があった警察という仕事についての理解を深めるべく、秋田県警察本部の個別ガイダンスに参加したり、9 月の中旬ごろに行われた「女子霞が関体験プログラム」という 5 日間のインターンシップに参加して、警察庁でお話を伺ったりしてきました。また、インターンシップを探す上で気になっていた国税局の 1 日体験にも参加しました。これらの仕事体験を経て、具体的に私がつきたい仕事を考えたとともに、公務員の働き方や女性が輝ける職場などの場面を知ることができました。

先述した通り、大学 2 年生で就職活動の準備をし始めるのは特別なことではありません。私が霞が関のインターンシップに参加したときには、大学 1 年生の人もいました。しかし、インターンシップがあるという情報を知る術や参加方法を確認するのは私一人では限界があり、難しい部分が多かったです。その時、就職情報室のスタッフの方々や就職推進担当の方に助けていただきながら参加し、時には就職活動について相談することもありました。職員の方々は親身になって話を聞いてくださり、私の希望職種に合った仕事のインターンシップについても教えてくださいました。とても感謝していますし、今後もアドバイスをいただきたいと思っています。

来年は公務員試験勉強をしながら、自分のつきたい仕事についてよりしっかりと考えていきたいです。



霞ヶ関駅の案内板



霞が関体験プログラムで行った消費者庁の食堂にて



「ボランティアサークル V-net」での経験

こども発達コース 2 年次 小館孝之介

今回、私は学生協議会の一員として「みなおと」に寄稿させていただくことになりました。そこで、私が所属する「ボランティアサークル V-net」というサークルをご紹介します。このサークルでは、ボランティア活動があるたびにサークルのメンバーにその連絡が入るようになっており、メンバーは自由にその活動に参加しています。昨年は、少年非行防止活動や立ち直り支援活動を行う「大学生少年サポーター」や障害者支援施設での活動、発達障害をもつ子どもたちとかかわる「夜話会」など、様々なボランティア活動が行われました。

ここからは、私が特にかかわっている「夜話会」の活動についてより詳しく紹介していきます。「夜話会」は、ゲームや運動などの遊びを通して発達障害をもつ子どもたちとかかわるボランティア活動であり、月に 1 回行っています。子どもたちは元気に遊んだり集中して何かに取り組んだりしており、私たち学生も彼らと一緒に楽しく活動しています。また、発達障害をもつ子どもたちとかかわり、彼らの実際にふれることができる貴重な機会であるため、この活動での経験は社会生活の中で障害をもっている人たちとかかわるうえで非常に役に立つと思います。

私たちのサークルが行っているボランティア活動では、様々な子どもたちとかかわることができます。そのため、将来保育や教育に携わりたいと考えている方はぜひ「ボランティアサークル V-net」に加入してみてください。



肋木で遊んでいる子ども



子ども（左）と一緒にゲームを楽しんでいる学生（右）



大学生協の食堂と購買の入口



大会館の入口

アルバイトについて

心理実践コース2年次 井出愛弓

私も含め、秋大生はアルバイトをしている人が多いように感じます。なかには大学の授業とアルバイトの掛け持ちを両立して頑張っている友人もいます。アルバイトをする目的としては、「生活費のため」「貯金をするため」「趣味のため」などが挙げられますが、私は、社会経験を積むためにアルバイトを始めてみることもいいのではないかと思います。

私は現在アパレル店員としてアルバイトをしています。元々ファッションに興味があり、アパレル店員に憧れもありました。人と関わることは好きでしたが得意ではなかったため、接客業は向いていないのではないかと悩みましたが、コミュニケーション能力や臨機応変に対応する能力を身につけたいという思いがあったため、アルバイトを始めました。

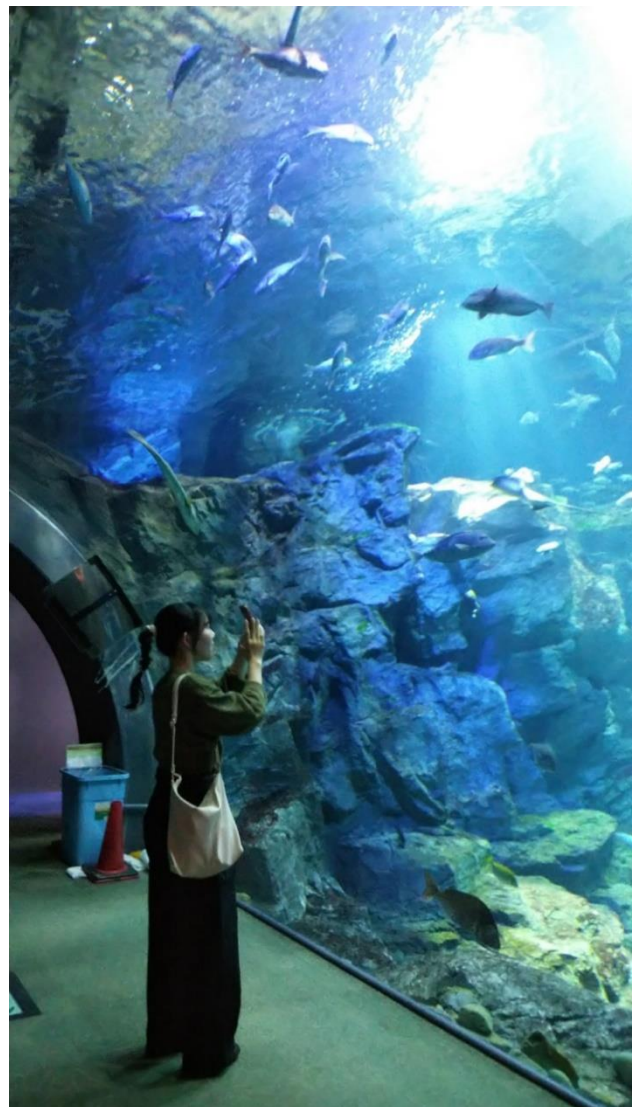
このアルバイトを通じて、関わる人の数を増やすことができました。店長や社員の方、バイト仲間、お客さんなど幅広い年齢層の方と関わり、自分と異なる世代の人と関わることによってコミュニケーション能力やマナー、正しい言葉遣いを身につけることもできました。

また、アルバイト経験は就職活動にも影響すると思っています。試行錯誤を重ねて接客をすることや普段の働きで信頼関係を築く経験は、社会人になったときにも役立つのではないかと思います。アルバイト先で怒られたり迷惑をかけてしまったりした経験も、改善点や経験値として今後活かしていくことができると思います。

これらの理由に限らず、大学生として何か新しいことを始めたい人にも、アルバイトはとても有意義な機会になると思います。



2023年秋大祭の写真



男鹿水族館 GAO にて



紅葉が綺麗な11月の大学構内

陸上競技部での活動紹介

教育実践コース2年次 工藤 凱

私が学生生活の主な活動として取り組んでいることの1つが、部活動・サークル活動です。私は現在、陸上競技部に所属しています。監督の松下翔一先生を筆頭に、週5回の練習を通して、より上位の大会へ進むことや自己ベスト記録の更新を目標に日々切磋琢磨しています。私は100mをメインとした短距離走を専門にしています。近年の秋田大学陸上競技部の主な成績は、昨年度の日本インカレで熊谷（当時4年）が走り幅跳び出場、また松本（当時3年）が棒高跳び出場などで、日本学生最高峰の舞台で勝負をする選手が在籍しております。

加えて、今年度は昨年度に続き、熊谷（大学院1年）が日本インカレの幅跳び出場、堀内（3年）が800mで出場しました。また、中塩（1年）が9月に開催された東北学生選手権にて100mで10秒50をマークしました。これは秋田大学の歴代記録を大きく更新しました。選手をはじめ、マネージャーの協力もありながら、1年間の練習が大きく実を結んだと思います。

このように、私たちはチーム一丸となって目標に向かって取り組んでいます。辛い練習もみんなで乗り切ることで、この上ない達成感を味わえます。部員全員笑顔で楽しく活動しています！現在も選手・マネージャー絶賛募集中です。ぜひ興味があれば、毎週水曜日・日曜日以外の16時30分（土曜日は9時30分から）に練習をしているので、見学や体験お待ちしております！



学部・研究科の活動（2023年10月～12月）

【全学】

10/14-15：大学祭

11/28：学長選考意向聴取投票実施、学長選考・監察会議で南谷佳弘医学部附属病院長が学長候補者に決定

【学部】

11/4：学部創立150周年記念式典・祝賀会

11/23：教員志望者対象のオータムキャンプ開催

12/2：「本学卒業生若手教員から話を聞こう」開催

12/13：第1回教育文化学部オンライン説

明会

【教育学研究科】

10/28：第2回大学院説明会

11/15：教職大学院6年一貫プログラム説明会

12/16：第2期大学院入試

【附属学校園】

11/10：第2回附中公開研究協議会

11/15：附幼オープン研究会 Zoom

11/28：第2回附小オープン研究会

教育界のリーダーとしての活躍を期待して教師の成長

旭水会会長 千葉 昭

教育文化学部創立 150 周年の節目の年に、同窓生の一人として寄稿できることに仕合せを感じています。

令和 5 年 8 月 10 日、「秋田惟蔭の会」総会に 4 年ぶりに対面で参加しました。学部の先生方はじめ惟蔭の会の皆さんの笑顔が印象的でした。

秋田大学教職大学院は、「理論と実践の往還」を教育・研究・実習の中心に据え、学校現場での経験豊かな実務家教員と質の高い教員養成や国内外の教育実践を研究・支援されてきた研究者教員が協同で院生の指導にあたっておられることに敬意と大きな期待を致しております。

時折、大学構内で顔見知りの実務家教員の方々とお会いする機会があります。皆さんは県内各種学校等で校長や教育行政では管理職として活躍された学校経営や教育指導のエキスパートの方々でした。

秋田の高い学力を支えてきた実務家教員と現職教員院生の皆さんは、平成 19 年度 (2007)、文部科学省が 40 数年ぶりに「全国学力・学習状況調査」を実施した時、学校現場で活躍されていました。

学力テストの結果が発表されたとき、誰もが自分の耳目を疑いました。まさか秋田県の児童生徒が全国のトップクラスの成績を収めるとは県内はじめ全国でも驚きのニュースになりました。それは、昭和 30 年代から 40 年代初めの学力調査では最下位クラスを低迷していた時代があったからです。しかし、その後の学力調査でも秋田県の児童生徒は、15 年連続トップクラスを維持しており本物であることが実証されました。

全国学力調査における最下位からの脱却について秋田県退職校長会の考察を引用すると、「児童生徒の学力向上は質の高い教師の養成」と「人間形成への努力と教育の正常化である」との当時の県教育長のことが印象に残っています。

各学校では、県教委や地教委の指導のもと研究指定校での校内研究や積極的な県内外の先進校視察・公開研究会への参加などで指導方法の工夫・改善や教材研究など質の高い教師を目指し授業力の向上に努めてきました。

また、同僚間での教材研究や指導案作成にも変化が見られるようになり、教師同士の協働で「同僚性」が培われ研究主任や管理職の指導・助言とも相まって、教師の指導力の向上は、児童生徒の

学力向上に直結することが目に見えるようになりました。

児童生徒の「学びを中心に据えた」授業研究は「秋田型探究学習」に見られるように、長年の努力の積み重ねが現在に至っています。

平成 18 年度 (2006) から令和 4 年度 (2022) まで 16 年間秋大付属小学校で学校評議員として毎年公開研究協議会や学校行事等に参加させてもらいました。

教育文化学部教員は、秋大附属四校園での実践的授業研究や公開研究協議会・オープン研修会等で高い指導力を発揮され、理論と実践の両面から協力・支援に努め、その成果を県内外へ発信しています。また、学部教員と附属四校園では学部生の教育実習や教職大学院生のインターンシップの充実など実践力を兼ね備えた教員志望者の養成に大きな役割を果たしていることを高く評価しています。

特に、秋大附属四校園は、公立学校等の先導的役割を担い公開研究協議会・オープン研修会等で教材研究や学習指導案の作成等を通し児童生徒の学力向上に指導的役割を果たすと共に本県教育の学力向上の原動力になっています。秋大附属四校園の教師力・授業力・学校力は児童生徒の確かな成長につながっています

秋田教職大学院で学ぶ皆さんは、県内外の先導的役割を果たしている秋大附属四校園での教育実習やインターンシップを実施し、学力テスト全国トップクラスの原動力である教員を養成している秋田大学で学んでいることに誇りと高い志をもって、教育文化学部 150 年の歴史と伝統を受け継ぎ教育界のリーダーを目指して活躍されることを期待いたしております。

「旭水会」は、皆様の心の支えになり、いつでも・どこでも応援しています。会員は、国内はもとより世界各地で活躍しています。大いに頼りにしてください。



教育文化学部創立150周年記念式典を開催

教育文化学部が、伝習学校として1873年に創立され、150周年を迎えたことを記念した式典が50名ほどの参加を得て、2023年11月4日14時から16時に60周年記念ホールで行われました。その後、大学会館1階において、祝賀会が、35名の参加で行われました。学生協議会の学生委員からも2名の参加がありました。



式典は宇野副学部長の司会で、上田学部長あいさつ、来賓紹介、150年の歩みのスライドショー、「学部の150年」と題した佐藤修司教授の講演、メッセージ紹介、山名裕子附属幼稚園長、佐藤修司附属小学校長、星宏人附属中学校長、前原和明附属特別支援学校長、鎌田信教職高度化センター長からの講演が行われました。

学部HPに掲載されている『創立150年史—秋田大学教育文化学部』（https://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/pdf/magazin/s150_01.pdf）の中の学部長あいさつは以下の通りです。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
学部長あいさつ

教育文化学部長 上田晴彦

教育文化学部は令和5年をもって、無事150年の歴史を刻むことができました。本学部は秋田伝習学校として明治6年9月に創立されて以来、秋田県の教員養成を全面的に担い、発展して参りました。さらに平成3年に新課程が設置されてからは、地域社会に貢献する公務員・企業人の育成にも、積極的にかかわって参りました。今日まで数多くの方々に支えられ、本学部はこの節目の年を迎えることができましたが、皆様のこれまでのご支援に心より御礼申し上げます。

教育文化学部のこれまでの道のりを振り返ると、数々の困難や試練があったことがわかります。例えば150年前に目を向けると、創立された伝習学校は佐竹藩の藩校であった明德館を使用する予定でした。ところが当時の明德館の建物は県庁として使用されていたうえ、伝習学校創立の直前（明治6年8月24日）に焼失するという憂き目にあっています。伝習学校は開校の翌年になる明治7年3月に、明德館跡に校舎を新築し秋田太平学校と改称されます。これでやっと落ち着いたと思いき

や、これ以降は学校制度の変更に合わせて、校名がたびたび変化することになります。また火災に見舞われ、建物もどんどん変化していきます。なお当時の明德館を知る上での類似の建物が、山形県鶴岡市に致道館（庄内藩藩校）として残っています。

時代を下って現在に近い平成7年に目を移したいと思います。私事になりますが、この年の4月に私は教育文化学部の前身となる教育学部に赴任しました。その頃の教育学部（定員320名）は教員採用の減少に苦しんでいました。そのため少し前の平成3年に「社会情報コース」、「環境情報コース」を設置し、平成5年に「国際情報コース」、「数理情報コース」を増設しています。これにより教員養成課程240名、新課程80名の体制となりました。そして平成10年には、教育学部は教育文化学部へ改組され、240名の教員養成課程が100名体制へ大幅縮小されることとなります。その後文科省が提示したミッションの再定義により、全国的には教員養成系学部は教員養成に特化し、新課程は廃止となりました。ところが教育文化学部は、教員養成課程に新課程を加えた体制が残り、16年後の平成26年度から現体制に至ることとなります。

ここでは詳しくは述べませんが、戦中・戦後の混乱期や学生運動が激化した時期などもあり、150年の歴史を振り返ると大河ドラマを見ているような気持ちになります。これからも多くの困難が予想されますが、本学部が無事に創立200周年を迎えられるよう日々努力を積み重ねていくことを、本学部を代表いたしまして、いま一度肝に銘じたいと考えております。なお本学部の発展は、これまで本学部に関係のあった皆様のご支援やご協力があってこそ成り立つものです。諸先輩方のこれまでの活躍に改めて心から感謝申し上げるとともに、これからも地域の発展のために有益な人材を育成したいと思っております。



最後に、本学部関係者である皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げますとともに、引き続き教育文化学部へのご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



武田元学部長のスピーチ



学生委員 2名のスピーチ



千葉旭水会会長のスピーチ



式典参加者の集合写真

秋田大学教育文化学部
150周年 記念式典

2023.11.4(SAT)14:00-16:00
場所 秋田大学 60周年記念ホール

式次第 (14:00-16:00)	祝賀会 (16:00-18:00)
1. 開式の辞	5. 退職者からのメッセージ
2. 学部長挨拶	6. 講演②
3. 150年の歩みスライドショー	7. 閉式の辞
4. 講演①	

参加対象者 秋田大学教育文化学部教職員及び退職者

主催
秋田大学教育文化学部
〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号
018-889-2509 <https://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/>

発行 **秋田大学教育文化学部／教育学研究科**

〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町1-1 TEL 018-889-2509 FAX 018-833-3049

教育文化学部・教育学研究科HP <http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/>

学部研究科通信「みなおと」バックナンバー⇒http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_magazin.html

教職大学院通信「暁鐘の音(かねのね)」⇒http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate_magazin.html

* 誌名「みなおと」の由来である秋田県女子師範学校校歌(1910年制作)を聴くことができます。

http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_symbol.html をご覧下さい。